

R6校内研究 国語サークルのまとめ

国語科の授業における

「試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む
児童の育成～自分で考え、自分で決める～」
について

「試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成
～自分で考え、自分で決める～」

1 国語科の授業における 研究主題の目指す児童像



「試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成 ～自分で考え、自分で決める～」

★「試行錯誤しながら」「粘り強く」取り組むとは

- ・課題やゴールに向かって、自分やグループで調べ、考えること。
- ・よりよい作品（作文やリーフレット等の制作物）にするためのポイントを考え、理解し、自分の作品に生かそうとすること。
- ・↑の2つを「何回も」繰り返すこと。反復！ 試す↔失敗（気付く！）
- ・考えを深める・諦めないために個人ではなく「協働」



「試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成 ～自分で考え、自分で決める～」

★「自分で考え」「自分で決める」とは

- ・1番心に残った場面は？
- ・誰とやる？
- ・発表(表現)の仕方は？
- ・テーマは何にする？
- ・何を使う(サイトは？アプリは？)
等々。

◎様々な方法を経験させていくことが必要。

◎やりやすさ、仲の良さではなく、自分にとって「どうすればできるようになるか」を大切にする。

◎気付きにくいようにルールを。あたかも自分が「やりたい」と思ったことを決めたかのように。(想定しておく。)

「試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成
～自分で考え、自分で決める～」

2 研究授業のまとめ (成果と課題)

「試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成 ～自分で考え、自分で決める～」

- 日 時:令和6年11月1日(金)第5校時

- 授業者:落合 里奈 (2年2組)
- 単元名: 心にのこったことをしょうかいし合おう
- 教材名: 「ないた 赤おに」

「試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成 ～自分で考え、自分で決める～」

☆研究授業のめあて

- まるごと読みをする(本時)

読む視点を与える

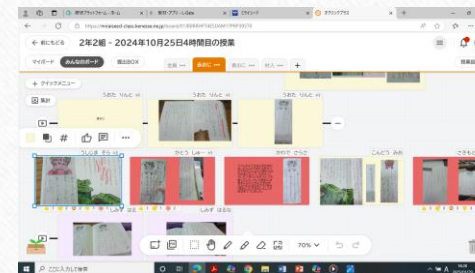
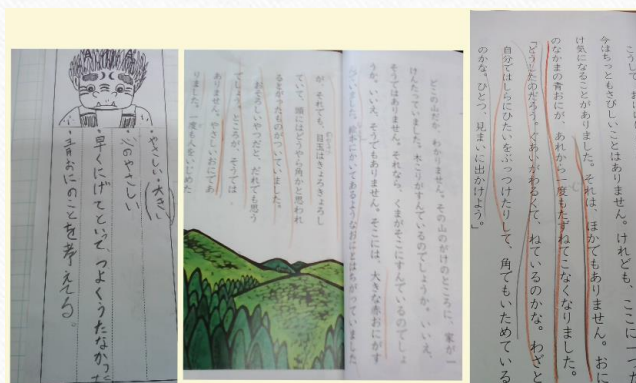
他者との意見の共有【協働的】

繰り返し読み、考えを広げる【試行錯誤、粘り強く学習に取り組む】

- ICTの活用をする(本時)

- お気に入りの場面を発表する言語活動をする
【自分で考え、自分で決める】

- 物語を読み味わうことで読書の楽しさを学ぶ

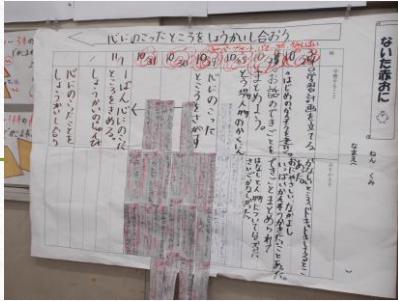


「試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成 ～自分で考え、自分で決める～」

【指導者 教育課程指導課主任指導主事松村先生より】

- ・単元(今回は「ないた赤おに」)を通して、物語文との向き合い方、読む視点を学ぶ
- ・低学年の子ども➡自分の経験と結び付けて想像することが大事(系統性)
- ・言葉に対する知識・使い方の技能➡読み・書き・話す一体化させて身に付ける
- ・国語の資質能力は2年間かけて身に付けていく(欲張らない・ポイントを絞る)
国語で身に付けた力➡他教科で生かす・高める

「試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成 ～自分で考え、自分で決める～」



○成果

- ・3色のカードを活用することで、読む視点がわかりやすかった。
- ・場面ごとではなく、読み視点を与えて物語をまる読みしたことで、子どもたちが物語を読み込めていた。
- ・友だちの意見を参考にまとめることにより、自分の考えに広がりを持てた。
- ・今までの学びを自分で表現している子どもの姿が見られた。
- ・ゴールを明確にしたことで、子どもたちが進んで学習に取り組むことができた。

「試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成 ～自分で考え、自分で決める～」

●課題

- ・本時の目標を明確にする➡本時は考えを広げる、深める時間
- ・ICTを使った授業の時間配分➡タブレットの準備
オクリンクを使った共有の仕方
※授業のめあてに沿った使い方や時間配分
- ・ICTの活用については試行錯誤の時、どんどん使ってみる。

「試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成
～自分で考え、自分で決める～」

3 国語科の授業改善の ポイント

「試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成 ～自分で考え、自分で決める～」

①目標やゴールを明確にする（学習計画）

- ・「試行錯誤」「粘り強く」を意識させるためには、子どもの「やってみたい！」「読み取りたい！」が原動力になる。→子どもの思いを大切にする工夫を。
- ・「楽しかった」と感じさせたい！答えが1つではないことの面白さを！
- ・学びの道筋を明確にすることで大きな脱線を防ぐ。
- ・指導要領で系統性を確認！！（付録4）
 - 教科書通りじゃつまらない！
 - ①評価基準→②つけたい力にフォーカス！→③どんな活動にする？
 - ④実態に応じてやり方を工夫する。→⑤細部を詰める

「試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成 ～自分で考え、自分で決める～」

②自己調整につなげる振り返りの充実

- ・振り返りの時間の確保(ループリック結構よかったです。)
- ・単元を通しての振り返りを行う(単元を通して高まった力は何？)

③国語の授業外で意識させる

- ・「国語」と「日常」を切り離しすぎない！
 - 例：読み取り方(普段は場面で読まない！)→生かせないし、つまらないに繋がる
- ・学んだことを他教科で生かせるように！
 - 書く力、伝える力、話し合い方、まとめる力等々

「試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成 ～自分で考え、自分で決める～」

④効果的なICTの活用を考える

- ・「試行錯誤」「粘り強く」学ぶために、情報を共有できる仕組みを。
→ 明るいカンニング。多面的に考えられるように。理想としては児童だけで動ける仕組み作りをして、教師はファシリテーターとして動けるようにしたい。
- ・紙かPCか自分のやりやすい方法を選択できるようにする。
- ・効率。提出。その他ICTの利点を考える。
- ・情報が増えやすいので、活用能力が必要。必要なデータを選択する。
カードの色分け、提示のタイミング等、シンプルでわかりやすい流れが必要。